

株式会社ATグループ

2020年度

(2020. 4～2021.3)

環境経営レポート



発行日：2021年7月25日

ATgroup

《目 次》

1. 組織の概要	・・・ P1
2. 認証の対象範囲	・・・ P2
3. 環境経営方針	・・・ P5
4. 環境経営目標および実績評価	・・・ P6
5. 環境経営計画	・・・ P12
6. 環境経営の取組結果と評価	・・・ P13
7. 環境関連法規制の順守状況および評価	・・・ P24
8. 代表者による全体見直しと評価	・・・ P25



1.組織の概要

① 事業所名および代表者名

株式会社A Tグループ

代表取締役 山口 真史

② 所在地

本社事業所

466-0057

A Tグループ本社 南館

愛知県名古屋市昭和区高辻町 6 番 8 号

③ 事業活動の内容

下記の会社の株式を所有し、その会社の経営管理およびそれに付帯する業務

- ・愛知トヨタ自動車株式会社 (ISO14001)
- ・トヨタカローラ愛豊株式会社
- ・ネッツトヨタ愛知株式会社
- ・ネッツトヨタ東海株式会社
- ・トヨタL&F 中部株式会社 (ISO14001)
- ・株式会社トヨタレンタリース愛知 (ISO14001)
- ・A Tグループ健康保険組合
- ・トヨタホーム愛知株式会社 (ISO14001)
- ・愛知スズキ販売株式会社
- ・株式会社アトコ/株式会社トランサット
- ・トヨタ情報システム愛知株式会社
- ・愛知クレジットサービス株式会社
- ・株式会社A Tビジネス (ISO14001)

④ 事業の規模 (2021 年 3 月 ※連結値)

売上高

395,907 百万円

従業員

6,646 人

2. 認証の対象範囲

① エコアクション21 対象範囲

- 事業活動：グループ会社全体の経営戦略立案・各社の経営統括と運営、新車・中古車の販売、自動車の整備・修理、情報システム開発・運用、旅行代理店業務、グループ各社の管理業務委託

	会社または拠点名	主な事業または用途
ATグループ本社 南館	(株)ATグループ 本社	グループ各社の経営管理
	トヨタカローラ愛豊(株) 本社	自動車販売拠点の統括管理
	トヨタ情報システム愛知(株) 名古屋事業所	システム開発
	(株)ATビジネス 本社	グループ各社の間接業務
	ネットトヨタ愛知(株) 本社	自動車販売拠点の統括管理
	ネットトヨタ東海(株) 本社	自動車販売拠点の統括管理
	トヨタカローラ愛豊(株) 高辻店	自動車販売
	ネットトヨタ愛知(株) 高辻店	自動車販売
ATグループ本社 北館	—	会議室
高辻サービスセンター	—	駐車場

会社名	拠点数
愛知スズキ販売(株)本社および高辻店	17
トヨタカローラ愛豊(株)	64
トヨタ情報システム愛知(株)	2
(株)ATビジネス	2
ネットトヨタ愛知(株)	32
ネットトヨタ東海(株)	22
(株)アトコ／(株)トランサット	17／3
愛知クレジットサービス(株)	1
ATグループ健康保険組合	1

※今後段階的に認証の対象範囲を広げる会社または拠点(2021 年 3 月現在)

2021 年 10 月 対象範囲拡大予定

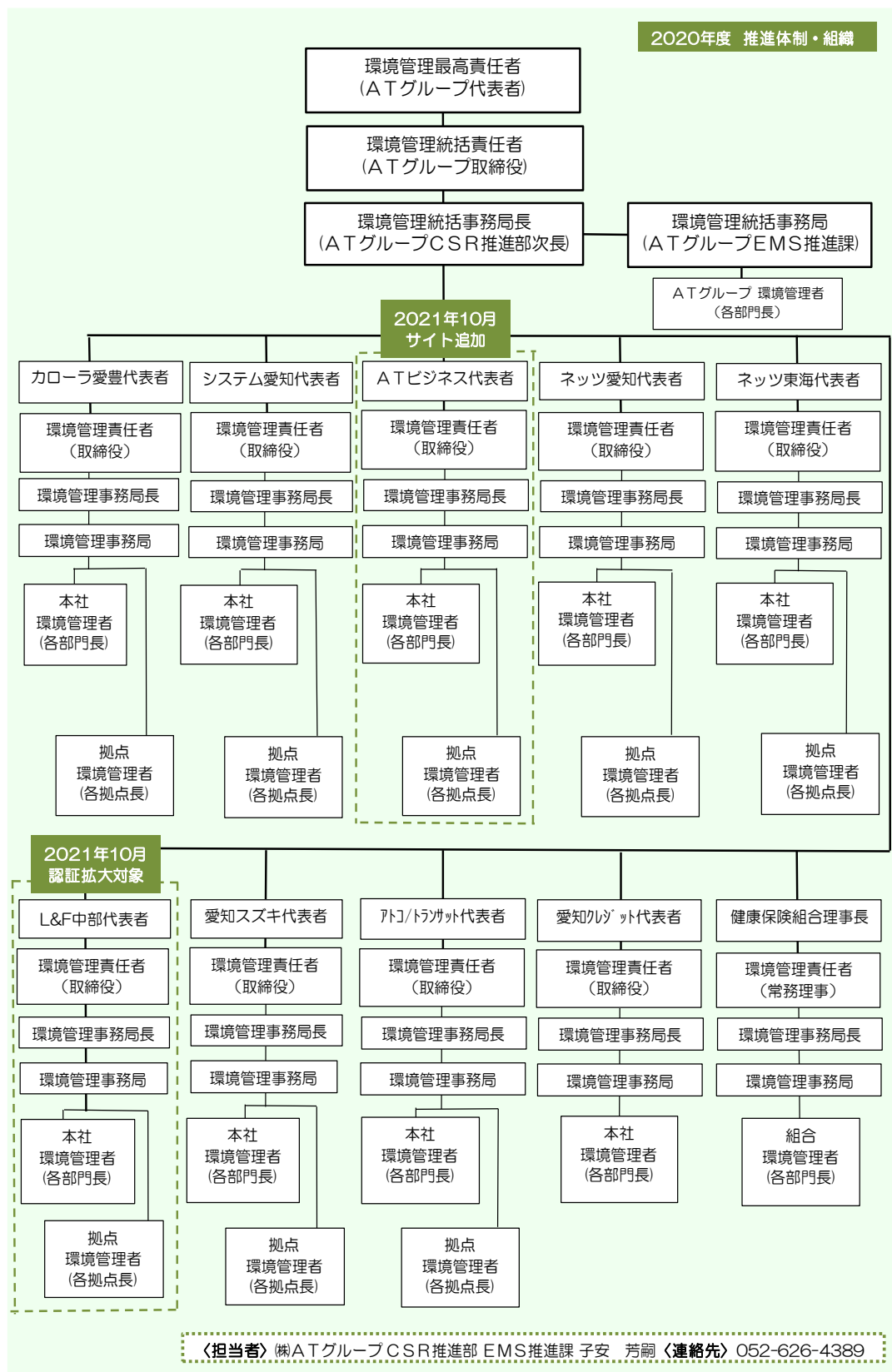
会社名	拠点数
トヨタ L&F 中部株式会社	29
株式会社 AT ビジネス	3

② 環境管理最高責任者および環境管理統括責任者

環境管理最高責任者：山口 真史

環境管理統括責任者：武内 優

③ エコアクション21推進体制・組織



④ 推進体制の役割・権限・責任

グループ全体の推進に関わる 役割・責任・権限	
環境管理最高責任者	環境経営に関する統括責任
環境管理統括責任者	・環境経営に関する統括責任 ・環境推進の実施に必要な人、設備、費用、時間を準備 ・環境管理統括事務局長を指名 ・環境方針の策定、見直しおよび全従業員への啓蒙 ・環境目標、環境活動計画書を報告 ・全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの報告
環境管理統括事務局長	・環境推進体制の構築、実施、管理 ・環境関連法規等とりまとめ表を承認 ・環境目標、環境活動計画書を確認 ・環境経営レポートの確認
環境管理統括事務局	・環境管理事務局長の補佐、会議の事務局 ・環境負荷および環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等とりまとめ表を作成し遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開
各社の推進に関わる 役割・責任・権限	
代表者	環境経営に関する統括責任
環境管理責任者	・環境経営に関する統括責任 ・環境推進の実施に必要な人、設備、費用、時間を準備 ・環境管理事務局長を指名 ・環境方針の策定、見直しおよび全従業員への啓蒙 ・環境目標、環境活動計画書を報告 ・全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの報告
環境管理事務局長	・環境推進体制の構築、実施、管理 ・環境関連法規等とりまとめ表を承認 ・環境目標、環境活動計画書を確認 ・環境経営レポートの確認
環境管理事務局	・環境管理事務局長の補佐、会議の事務局 ・環境負荷および環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等とりまとめ表を作成し遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成
環境管理者	・自拠点(部門)における環境方針の周知 ・自拠点(部門)における環境推進活動の実施 ・自拠点(部門)の従業員に対する教育訓練の実施 ・自拠点(部門)に関連する環境活動の報告、記録の作成 ・自拠点(部門)の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決定事項を守り、自主的かつ積極的に環境活動へ参加

3.環境経営方針

① A Tグループ環境基本方針

A Tグループは、全ての事業活動において環境との調和を図るため以下の項目を遂行し、環境汚染防止ならびに環境保全に持続的に努め、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の構築に寄与します

- ・環境関連法令の遵守
- ・環境推進体制の構築
- ・環境負荷低減への積極的な貢献
- ・環境にかかわる教育の継続的な実施

2015年4月22日制定

株式会社A Tグループ

代表取締役社長 山口 真史

※グループ事業会社の主な事業活動：「自動車・産業車両・自動車リース・住宅」などの販売およびサービス業務、システム開発・自動車ローンの保証業務、車両輸送業務等

② 具体的な推進事項

✓ 環境法令の遵守

- ・環境関連法規制、条例を定期的に確認し遵守します

✓ 環境推進体制の構築

- ・環境管理組織をつくり、「役割・責任・権限」を明確化します
- ・毎年「環境経営レポート」を作成し推進体制を決定および確認をします

✓ 環境負荷低減への積極的な貢献

- ・二酸化炭素の排出量削減を推進します
- ・リサイクルの推進と廃棄物の削減に努めます
- ・地域コミュニケーションを大切にし、環境保護活動に協力します

✓ 環境にかかわる教育の継続的な実施

- ・教育プログラムによる従業員教育を実施します

4.環境経営目標および実績評価

① 〈オートタウン高辻〉

EA21環境経営 取り組み項目			基準年度実績	年度目標			2020年度 実績	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	実績	対目標比
〔目標値設定基準率〕				基準年度 実績値比	基準年度 実績値比	基準年度 実績値比		
				1%削減	1%削減	1%削減		
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kl	547	541	541	541	581	7.4%
	電気(※1)	KWh	1,562,872	1,547,243	1,547,243	1,547,243	1,630,122	5.4%
	都市ガス	m ³	72,713	71,986	71,986	71,986	88,586	23.1%
	LPG	m ³	該当なし	—	—	—	該当なし	—
	ガソリン	L	60,225	59,623	59,623	59,623	68,915	15.6%
	軽油	L	921	912	912	912	1,746	91.4%
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	996	986	986	986	1,083	9.8%
廃棄物排出 量の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比	対前年 目標値比	対前年 目標値比	実績	対目標比
				1%削減	1%削減	1%削減		
	一般廃棄物	t	17.1	16.9	16.9	16.9	15.1	-10.7%
	産業廃棄物	t	該当なし	—	—	—	該当なし	—
水使用量 の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比	基準年度 実績値比	基準年度 実績値比	実績	対目標比
				1%削減	1%削減	1%削減		
	水使用量	m ³	10,254	10,151	10,151	10,151	12,878	26.9%
古紙資源化 の推進	〔目標値設定基準率〕			再資源化	再資源化	再資源化	実績	対目標比
	古紙資源化率	%	100	100	100	100	100	0.0%
次世代自動車 の推販 (自動車販売全体 (※2))	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比	基準年度 実績値比	基準年度 実績値比	実績	対目標比
				1%増	1%増	1%増		
	販売比率	%	40.9	41.9	41.9	41.9	38.4	-8.4%

《エネルギー使用量に関する総括》

- ・電気、ガス使用料ともに前年より増加したが、これは換気の徹底によるエアコンへの負荷が要因であったと思われる
- ・軽油の使用料が増加しているが、これは事業会社店舗から出された部品の運搬量が増加に伴い走行距離が増加したことが要因と思われる

※1「二酸化炭素排出量」は2019年度トヨタエナジー排出係数「0.446(kg-CO₂/kWh)」を使用

※2「次世代自動車販売」はグループ内の自動車販売会社が対象

② 〈対象事業会社〉

◆トヨタカローラ愛豊(主な業務:車両販売 対象拠点数:64)

EA21環境経営取組項目		単位	年度	使用量	対前年	CO2排出量(t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kℓ	2019	2,551	0.7%	—
			2020	2,568		—
	電気	kWh	2019	7,958,519	0.3%	3,549.5
			2020	7,979,397		3,678.5
	都市ガス	m³	2019	56,651	16.4%	126.3
			2020	65,929		147.0
	LPG	m³	2019	64,789	1.4%	194.4
			2020	65,698		197.1
	ガソリン	ℓ	2019	266,495	0.3%	618.3
			2020	267,294		620.1
	軽油	ℓ	2019	109,962	2.5%	283.7
			2020	112,724		290.8
	二酸化炭素 排出量合計	t	2019	—	3.4%	4,772.2
			2020	—		4,933.6
	一般廃棄物	2021年度より算出				
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物	t	2019	2,492	4.2%	—
			2020	2,596		—
水使用量の削減	水道使用料	m³	2019	43,286	0.4%	—
			2020	43,445		—
古紙資源化 の推進	古紙資源化率	%	2019	100	0.0%	—
			2020	100		—
次世代自動車 の推販	販売比率	%	2019	38.0	-8.7%	—
			2020	34.7		—

《エネルギー使用量に関する総括》

- ・建物内の換気をしなければならず冷暖房にエネルギーを多く使用したため使用量が増えたと思われる
- ・乗り合いで出かけることを避け、積載車や社用車の単独使用が増えたことが燃料使用量増の要因と思われる

◆ネットヨタ愛知(主な業務:車両販売 対象拠点数:32)

EA21環境経営取組項目		単位	年度	使用量	対前年	CO2排出量(t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kℓ	2019	1,191	-0.2%	—
			2020	1,189		—
	電気	kWh	2019	3,996,512	0.3%	1,782.4
			2020	4,009,730		1,848.5
	都市ガス	m³	2019	29,056	11.7%	64.8
			2020	32,454		72.4
	LPG	m³	2019	該当なし		
			2020			
	ガソリン	ℓ	2019	133,257	-4.8%	309.2
			2020	126,903		294.4
	軽油	ℓ	2019	10,438	-33.3%	26.9
			2020	6,964		18.0
	二酸化炭素 排出量合計	t	2019	—	2.3%	2,183.3
			2020	—		2,233.2
	一般廃棄物	2021年度より算出				
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物	t	2019	950	0.3%	—
			2020	953		—
水使用量の削減	水道使用料	m³	2019	30,349	-24.0%	—
			2020	23,076		—
古紙資源化 の推進	古紙資源化率	%	2019	100	0.0%	—
			2020	100		—
次世代自動車 の推販	販売比率	%	2019	32.8	-4.9%	—
			2020	31.2		—

《エネルギー使用量に関する総括》

- ・ガスエアコン使用店舗における換気をしながらのエアコン使用がガス使用量増につながったと思われる
- ・積載車や社用車で移動が減少したことが燃料使用量の削減につながったと思われる

◆ネットヨタ東海(主な業務:車両販売 対象拠点数:22)

EA21環境経営取組項目		単位	年度	使用量	対前年	CO2排出量(t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kℓ	2019	1,188	-0.1%	—
			2020	1,187		—
	電気	kWh	2019	3,893,791	0.9%	1,736.6
			2020	3,928,789		1,811.2
	都市ガス	m³	2019	24,975	2.1%	55.7
			2020	25,500		56.9
	LPG	m³	2019	12,196	-1.2%	36.6
			2020	12,047		36.1
	ガソリン	ℓ	2019	114,106	-11.1%	264.7
			2020	101,442		235.3
	軽油	ℓ	2019	42,880	1.4%	110.6
			2020	43,466		112.1
	二酸化炭素 排出量合計	t	2019	—	2.2%	2,204.3
			2020	—		2,251.7
	一般廃棄物	2021年度より算出				
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物	t	2019	946	-25.2%	—
			2020	708		—
水使用量の削減	水道使用料	m³	2019	24,197	1.5%	—
			2020	24,565		—
古紙資源化 の推進	古紙資源化率	%	2019	100	0.0%	—
			2020	100		—
次世代自動車 の推販	販売比率	%	2019	30.2	0.0%	—
			2020	30.2		—

《エネルギー使用量に関する総括》

- ・エネルギー使用量は概ね前年並みであった
- ・コロナ禍で全体的な車両移動の減少がガソリン使用量の削減につながったと思われる

◆愛知スズキ販売(主な業務:車両販売 対象拠点数:17)

EA21環境経営取組項目		単位	年度	使用量	対前年	CO2排出量(t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 （原油換算値）	kℓ	2019	468	15.0%	—
			2020	538		—
	電気	kWh	2019	1,099,755	19.7%	490.5
			2020	1,316,279		606.8
	都市ガス	m³	2019	246	52.4%	0.5
			2020	375		0.8
	LPG	m³	2019	該当なし		
			2020			
	ガソリン	ℓ	2019	161,455	11.1%	374.6
			2020	179,391		416.2
	軽油	ℓ	2019	41,076	-3.8%	106.0
			2020	39,535		102.0
二酸化炭素 排出量合計	t	2019	—	15.9%	971.6	
		2020	—		1,125.8	
	一般廃棄物	2021年度より算出				
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物	t	2019	332	38.3%	—
			2020	459		—
水使用量の削減	水道使用料	m³	2019	6,576	9.4%	—
			2020	7,192		—
古紙資源化 の推進	古紙資源化率	%	2019	100	0.0%	—
			2020	100		—
次世代自動車 の推販	販売比率	%	2019	47.1	10.2%	—
			2020	51.9		—

《エネルギー使用量に関する総括》

- ・コロナ感染対策で換気を定期的実施する為、A/Cがフル稼働した
- ・スズキ車で大規模リコールが出たため、サービス代車を15台増車し、あわせてサービス代車の使用が増加した

◆アトコ/トランサット(主な業務:車両回送 対象拠点数:17/3)

EA21環境経営取組項目		単位	年度	使用量	対前年	CO2排出量(t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 （原油換算値）	kℓ	2019	697	-25.5%	—
			2020	519		—
	電気	kWh	2019	847,946	-8.2%	378.2
			2020	778,416		358.8
	都市ガス	m³	2019	9,904	-64.5%	22.1
			2020	3,518		7.8
	LPG	m³	2019	4,121	14.7%	12.4
			2020	4,729		14.2
	ガソリン	ℓ	2019	50,080	4.5%	116.2
			2020	52,333		121.4
	軽油	ℓ	2019	274,767	-4.3%	708.9
			2020	263,058		678.7
	二酸化炭素 排出量合計	t	2019	—	-4.6%	1,237.7
			2020	—		1,181.0
	一般廃棄物	2021年度より算出				
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物	t	2019	86	-41.7%	—
			2020	50		—
水使用量の削減	水道使用料	m³	2019	6,128	8.2%	—
			2020	6,630		—
古紙資源化 の推進	古紙資源化率	%	2019	100	0.0%	—
			2020	100		—
次世代自動車 の推販	販売比率	%	2019	該当なし		
			2020			

《エネルギー使用量に関する総括》

- ・コロナ禍により閉鎖した店舗があったため全体的なエネルギー使用量が減少したと思われる
- ・トランサットが運用しているグループ内を巡回する郵便車の稼働減少が軽油使用量削減の要因と思われる

◆トヨタ情報システム愛知(主な業務:システム開発 対象拠点数:2)

EA21環境経営取組項目		単位	年度	使用量	対前年	CO2排出量(t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kℓ	2019	241	2.5%	—
			2020	247		—
	電気	kWh	2019	780,570	-1.6%	348.1
			2020	768,393		354.2
	都市ガス	m³	2019	30,200	31.0%	67.3
			2020	39,567		88.2
	LPG	m³	2019	該当なし		
			2020			
	ガソリン	ℓ	2019	6,151	-20.1%	14.3
			2020	4,913		11.4
	軽油	ℓ	2019	該当なし		
			2020			
二酸化炭素 排出量合計	t	2019	—	5.6%	429.8	
		2020	—		453.9	
	一般廃棄物	2021年度より算出				
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物	t	2019	3	366.7%	—
			2020	14		—
水使用量の削減	水道使用料	m³	2019	3,387	-10.1%	—
			2020	3,044		—
古紙資源化 の推進	古紙資源化率	%	2019	100	0.0%	—
			2020	100		—
次世代自動車 の推販	販売比率	%	2019	該当なし		
			2020			

《エネルギー使用量に関する総括》

- ・コロナ禍によりリモート会議等が増え、移動が減少したことがガソリン使用量の削減につながったと思われる

◆愛知クレジット(主な業務:自動車ローン 対象拠点数:1)

E A21環境経営取組項目		単位	年度	使用量	対前年	CO2排出量(t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 （原油換算値）	kℓ	2019	—	—	—
			2020	10		—
	電気	kWh	2019	—	—	—
			2020	33,205		15.3
	都市ガス	m³	2019	該当なし		
			2020			
	LPG	m³	2019	該当なし		
			2020			
	ガソリン	ℓ	2019	—	—	—
			2020	1,965		4.6
	軽油	ℓ	2019	該当なし		
			2020			
	二酸化炭素 排出量合計	t	2019	—	—	—
			2020	—		19.9
	一般廃棄物	2021年度より算出				
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物	t	2019	該当なし		
			2020			
水使用量の削減	水道使用料	m³	2019	該当なし		
			2020			
古紙資源化 の推進	古紙資源化率	%	2019	—	—	—
			2020	100		—
次世代自動車 の推販	販売比率	%	2019	該当なし		
			2020			

《エネルギー使用量に関する総括》

・昨年度のデータがないため比較は不可。次年度より検証していく。

◆ATビジネス(主な業務:間接業務 対象拠点数:2)

E A21環境経営取組項目		単位	年度	使用量	対前年	CO2排出量(t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kℓ	2019	71	8.5%	—
			2020	77		—
	電気	kWh	2019	188,536	19.1%	84.1
			2020	224,472		103.5
	都市ガス	m³	2019	2,716	-2.0%	6.1
			2020	2,662		5.9
	LPG	m³	2019	該当なし		
			2020			
	ガソリン	ℓ	2019	21,583	-16.5%	50.1
			2020	18,014		41.8
	軽油	ℓ	2019	180	—	0.5
			2020	0		0.0
	二酸化炭素 排出量合計	t	2019	—	7.5%	140.7
			2020	—		151.2
	一般廃棄物	2021年度より算出				
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物	t	2019	—	—	—
			2020	—		—
水使用量の削減	水道使用料	m³	2019	1,047	15.6%	—
			2020	1,210		—
古紙資源化 の推進	古紙資源化率	%	2019	100	0.0%	—
			2020	100		—
次世代自動車 の推販	販売比率	%	2019	該当なし		
			2020			

《エネルギー使用量に関する総括》

・部署の移転によるエネルギー使用への負荷増が電気使用量増加の要因と思われる

・コロナ禍でリモートの活用が増え拠点への移動が減ったことがガソリン使用量削減につながったと思われる

◆ATグループ健康保険組合(主な業務:社会保険業務 対象拠点数:1)

EA21環境経営取組項目		単位	年度	使用量	対前年	C02排出量(t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 （原油換算値）	kℓ	2019	37	5.4%	—
			2020	39		—
	電気	kWh	2019	105,745	2.5%	47.2
			2020	108,422		50.0
	都市ガス	m³	2019	3,174	17.2%	7.0
			2020	3,721		8.0
	LPG	m³	2019	該当なし		
			2020			
	ガソリン	ℓ	2019	2,538	3.7%	5.9
			2020	2,631		6.1
	軽油	ℓ	2019	3,761	12.9%	9.7
			2020	4,245		11.0
	二酸化炭素 排出量合計	t	2019	—	7.6%	69.8
			2020	—		75.0
	一般廃棄物	2021年度より算出				
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物	t	2019	3.8	-36.8%	—
			2020	2.4		—
水使用量の削減	水道使用料	m³	2019	746	11.3%	—
			2020	830		—
古紙資源化 の推進	古紙資源化率	%	2019	100	0.0%	—
			2020	100		—
次世代自動車 の推販	販売比率	%	2019	該当なし		
			2020			

《エネルギー使用量に関する総括》

- ・ガス(GHP)…建物内の換気をしなければならず冷暖房にエネルギーを多く使用したためガス使用量が増加したと思われる
- ・軽油(健診車)…コロナ禍によるスケジュール変更で移動距離が増加したことにより増加したと思われる
- ・水道…胃カメラ実施数を増やしたことにより、カメラ洗浄のための水道使用量が増加したと思われる

5.環境経営計画

① 環境法令の遵守

- ・環境関連法令の改正情報について WEB サービスを使用し定期的に監視する
- ・法令改正情報を適時伝達し情報共有する

② 二酸化炭素排出量の削減

〈電力使用量の削減〉

- ・節電啓蒙用ポスターの掲示
- ・不要照明の消灯
- ・室内温度管理を基準とした空調設定（夏期：28℃、冬期：20℃）
- ・クールビズ、ウォームビズの推進

〈燃料使用量の削減〉

- ・社有車全てエコカーを使用
- ・エコドライブの推進

③ 廃棄物総排出量の削減

- ・各所ごみ箱の設置数を制限し、発生抑制に努める
- ・ごみ分別ルールを定め分別廃棄を実施

④ 水使用量の削減

- ・手洗い時の流し放しをしない
- ・施設設備は節水タイプを優先して使用

⑤ リサイクルの推進

- ・古紙は品目別に分別廃棄し、リサイクル可能な回収業者に委託
- ・資源ごみ(びん、缶、ペットボトル)はリサイクル可能な回収業者に委託

⑥ 社会貢献活動の推進

- ・毎月1回、地域貢献として近隣の清掃活動を実施
- ・地域への貢献活動を積極的に実施

⑦ 環境教育の推進

- ・グループ統一、環境マネジメント「EMSファイル」を活用した包括的な管理を実施
- ・環境教育ツールを活用し、従業員教育を継続的に実施

⑧ 次世代自動車の推進

- ・低炭素社会へ貢献するため、次世代自動車(ハイブリッド、電気自動車、プラグインハイブリッド、燃料電池車、マイルドハイブリッド)の使用および販売を推進
- ・お客さまへ自動車使用に関わる「環境影響」をご説明し、次世代自動車を率先販売

※ 認証拡大途中であるため、拡大が完了する 2022 年度まで記載の活動内容を継続する

6.環境経営の取組結果と評価

環境法令の遵守

■ビル内の「環境測定」を実施

- ・ビル内で働く従業員の健康維持のために、ビル衛生管理法の測定基準に準じて「空気環境測定」を実施しています。
- ・ビル管理の委託業者による測定を実施し、異常はありませんでした。

➢ 本社南館・北館の各執務室にて測定した「空気環境測定結果報告書」および測定の様子



■塗装業務を実施する事業所の「環境測定」を実施

- ・自動車の钣金塗装を行う事業所には、「塗装用ブース」の施設があり従業員の健康維持のため労働安全衛生法に準じて「作業環境測定」を実施しています。
- ・委託業者により各事業所の測定を実施し、異常はありませんでした。

➢ 事業所内の「塗装ブース」での測定状況および「作業環境測定結果報告書(証明書)」



■環境に関わる「拠点の定期監査」を実施

- ・半期に一度、環境関連の管理状況を確認するために監査を実施しています。
- ・廃棄物の管理状況や油脂類の保管量など、適正に運用ができていないかを現地にて確認することができました。

➢ 環境関連の監査で使用したチェックシートおよび現地の少量危険物庫内の様子



■環境に関わる「钣金塗装拠点の定期監査」を実施

- ・「钣金、塗装」の業務を行う拠点に対し年に一度、環境関連の管理状況を確認するために監査を実施しています。
- ・有機溶剤の取扱い管理や危険物の管理など、適正に運用ができていないか現地にて確認し、適正運用が確認できました。

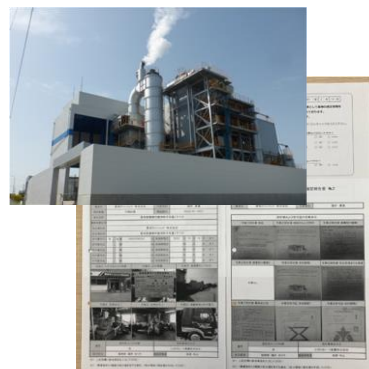
➤現地で確認した「危険物の保管状況」および、法定看板の掲示状況



■「排出事業者による産廃処理状況の確認」を実施

- ・廃棄物処理法および県の環境条例を担保するために年に一度、グループ各社が委託する産廃業者への現地確認を実施しています。
- ・専用のチェックシートを作成し、現地の確認写真を添付した報告書にて該当する事業会社へ報告しました。

➤グループ事業会社が委託する全ての委託業者に対して現地確認を実施した「産廃業者現地確認報告書」



■整備工場を有する拠点に対し「水質検査」を実施

- ・「水質汚濁防止法」「下水道法」を担保するため、年に一度、整備工場を有する拠点に対し「水質検査」を実施しています。
- ・委託業者により各事業所の測定を実施し、異常はありませんでした。

➤水質分析のため、拠点の「油水分離槽」のうち最終槽の汚水を採取している様子



■整備工場を有する拠点に対し「騒音測定」を実施

- ・「騒音規制法」を担保するため、年に一度、整備工場を有する拠点に対し「騒音測定」を実施しています。
- ・近隣から騒音の苦情が発生しないよう測定を実施し、基準値超えはありませんでした。

➢騒音測定のため、拠点の敷地境界に「騒音測定器」を設置し測定している様子



■EMS推進連絡会を定期開催

- ・四半期に一度、各社の環境担当者を招集し、環境関連法令の改正情報、活動計画に沿った環境活動の推進、環境事故情報などを共有しています。
- ・同会議では、紙の削減のためタブレット端末を使用し、ペーパーレス会議を推進しています。

➢ペーパーレスの「環境推進連絡会」で使用した資料



■法令改正情報の入手と各社展開

- ・環境関連法令の改正情報は、WEB サービスを使用し定期的に監視しています。
- ・グループ各社の担当にも同様にメール配信し、改正情報の共有とともに注意喚起を行いました。
- ・法令改正情報の事前入手により、法令遵守への早めの対応が図れました。

➢WEB サービスにて配信された法改正情報の紹介画面「法令速報」



二酸化炭素排出量の削減

■「エネルギー管理システム(BEMS)」の活用

- ・「オートタウン高辻(本社南館・北館)」のエネルギー管理は「エネルギー管理システム」で電気使用量の把握を実施しています。
- ・「本社南館・北館」各階各設備の電気使用状況は、このシステムにて把握できました。

➤ 1階守衛室に設置の「エネルギー管理システム」コントロールパネル



■「太陽光発電システム(ソーラーパネル)」の活用

- ・「オートタウン高辻(本社南館・北館)」の屋上には、省エネ対策の一つとして「太陽光発電システム」を設置しています。
- ・日常使用する電気を太陽光発電システムにて補い、省エネを実施しました。

➤ 本社南館に施工した「太陽光発電システム」



■「太陽光発電システムモニター」の活用

- ・「本社南館」の1階エントランスおよび2階ランチエリア内のモニターにて、太陽光発電の様子が確認できます。
- ・竣工からの発電量および本日の発電量を確認する事ができ、省エネ意識向上に役立ちました。

➤ 1階エントランス、2階ランチエリアのモニターの様子



■「エコボイド」の活用

- ・「本社南館」では省エネ対策の一つとして「エコボイド (ビル中央部分の空洞化)」を設置しています。
- ・採光が可能なほか、外壁より外気を執務室内に取り込み、ビル中央の空間に排気して空気の流れを作ります。空調関連の省エネ対策になっています。
- ・高辻南館・北館、および高辻サービスセンターの空調は全て省エネタイプを導入しています。

➤ 本社南館の採光のための吹き抜け状の外部空間「エコボイド」



■「屋上緑化」の活用

- ・「オートタウン高辻(本社南館・北館)」の屋上に緑化区画を設置しています。
- ・都市緑地法に準じた名古屋市条例「緑化地域制度」に対応し、地球温暖化対策にも貢献しています。

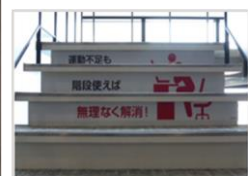
➤ 本社南館 2 階の「屋上緑化」の様子。コミュニケーションエリアとしても活用



■「省エネ&健康促進」の実施

- ・本社南館に勤務の従業員に健康促進を促し、エレベータではなく階段の利用を推進しています。
- ・積極的に階段が利用できるように健康促進用語を階段正面(蹴込み板)に表示しています。
- ・エレベータ付近に近隣階への移動は階段の利用を促すポスターを掲示しています。
- ・エレベータの稼働を抑制し省エネにも繋がっています。

➤ エレベータ付近に掲示したポスターと「本社南館」の階段に表示した健康促進用語



■「クールビズ」の実施と地球温暖化対策活動への参加

- ・環境省が夏季に推奨するクールチョイスの一つになっている「クールビズ」を5月～9月の期間、実施しました。
- ・室内の推奨温度を「28℃目安」として、地球温暖化対策活動に参加しました。

➤執務室内のエアコンパネルに室内温度の目安を表示した掲示物と環境省ホームページで紹介されているクールビズの告知



■社有車は「エコカー」を率先活用

- ・社有車についてはハイブリッド車などの「エコカー」を率先活用しています。
- ・ハイブリッド車は普通車に比べると同型車でガソリン使用量が半減するほか、CO2削減にも貢献します。

➤グループ事業会社の自動車販社取り扱いのエコカーの一例（FCV・PHV・ハイブリッド車）



廃棄物総排出量の削減およびリサイクルの推進

■ 各執務室「ごみ分別廃棄ステーション」の活用

- ・「本社南館」の各執務室にごみを分別廃棄するための場所を統一し運用しています。
- ・個人のごみ箱を廃止し、分別と同時にあえて「捨てに行く手間」の負荷を掛けることで発生抑制を図りました。
- ・可燃、不燃の分別のほか、古紙の分別も出来るよう専用の「古紙分別BOX」および「機密回収BOX」を設置して、廃棄方法の統一化を図りました。

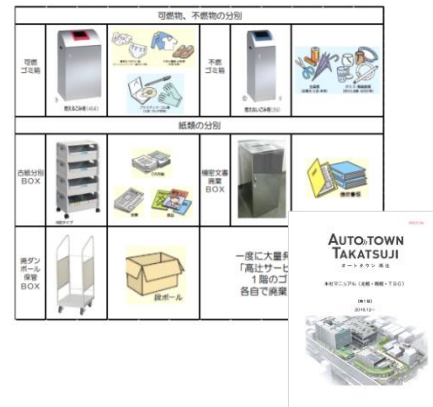
➤ 各フロアの執務室内に設置している「ごみ分別廃棄ステーション」



■ 「ごみの分別ルール」を定めたマニュアルの活用

- ・オートタウン高辻のごみ分別廃棄方法を統一するため、ルール化し運用しています。
- ・各社共通のポータルサイトにマニュアルを掲載し、ペーパーレス化も同時に実施しています。
- ・同マニュアルにはビル内設備の使用方法や、その他館内運用ルールの掲載もあります。

➤ オートタウン高辻におけるごみの分別廃棄方法を記載したマニュアル



■ 高辻サービスセンター1階の「ごみ集積場」の活用

- ・オートタウン高辻(本社南館・北館・高辻サービスセンター)で発生した廃棄物を「ごみ集積場」に集約し一時保管しています。
- ・「ビン、缶、ペット」「古紙」は再資源化できるようにリサイクル業者に委託し回収します。

➤ 「ごみ集積場」で分別管理している様子



社会貢献活動の推進

■環境美化活動「まちなかクリーンデー」を実施

- ・拠点廻りの掃き掃除だけでなく、専用のごみ袋、ごみ挟み(トング)や軍手を持参し、まちなかに繰り出して活動を実施しています。
- ・毎月第2金曜日を「まちなかクリーンデー」として、グループ統一で一斉に清掃活動を実施しました。

➤まちなかクリーンデーで使用する「専用のごみ袋」



■オートタウン高辻で「献血活動」を実施

- ・オートタウン高辻の従業員および近隣のグループ事業会社拠点にも案内し献血活動を実施しています。
- ・本社地区は従業員が多いため、10月および1月の2回に分けて実施しました。
- ・両日とも献血バスを2台待機。グループ社員のみなさんのご協力により、参加者数、採血量ともに前年を上回りました。
- ・献血はグループの各エリアでも実施しています。

➤献血バス2台をオートタウン高辻駐車場に配備し実施



■「クルマづくり究めるプロジェクト」への参加

- ・モノづくりの町「豊田市」で、トヨタ自動車をはじめトヨタ製造系メーカーを中心にクルマづくり体験を通し、子供たちにモノづくりの楽しさを学んでもらうプロジェクト。参加した子供たちの指導役として、グループ各社からメンバーが参加しました。

➤プロジェクトでクルマづくりを体験している様子。

参加事業会社

愛知トヨタ・カローラ愛豊・ネッツ愛知・ネッツ東海
レンタリース愛知・トヨタL&F中部・愛知スズキ
ATグループ



■地元自治体との協定締結とプロジェクトへの参画

- ・本年度は、みよし市・豊明市・豊田市の3つの自治体と新たな協定締結、プロジェクトへの参画を行いました。

＜協定内容＞

- ・みよし市：地域活性化に関する包括連携協定
- ・豊明市：災害時における車両等の提供に関する協定書

＜参画したプロジェクト＞

- ・豊田市：「SAKURA プロジェクト」(トヨタ販売店)

➤「SAKURA プロジェクト」の発表会見の様子



■甚大な被害をもたらした「激甚災害」に義援金

- ・自然災害により甚大な被害をもたらした「激甚災害」に対し災害支援としていち早く支援行同を起こすため、グループ内事業会社(12社)が協力し「日本赤十字社」に義援金を寄託しました。

＜義援金の寄付を実施した災害＞

- ・令和2年7月豪雨による災害

➤日本赤十字社の義援金公募のHP



■チョイソコ(デマンド型交通)への参画

- ・高齢者や障がい者の方々がお出かけする際の足として、新たな移動の形で地域を運行する乗り合い送迎サービス「チョイソコ」事業に参画しています。(岡崎市、豊明市)

➤豊明市のチョイソコガイドブックと岡崎市のチョイソコ広報誌



■「ヘルプマーク普及パートナーシップ制度」

への登録を継続

- ・愛知県がヘルプマークの普及、啓発に協力する民間事業者を募集し、グループ内事業会社(12社)が登録。
- ・各社拠点内に普及用のポスター掲示および、説明用リーフレットを店頭に配置しています。

➤登録時の愛知県 HP 内の登録事業者一覧とグループ内事業会社が記載されている本年度の登録事業者一覧



登録事業者	登録状況	備考
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	
ATグループ	登録済み	

■コロナウィルス感染拡大に奮闘する医療への支援

- ・医療現場の方々の「移動」を支援する取組みとして、車両の無償貸し出しを行いました。
- ・コロナウィルス感染者の移動や PCR 検査の検体輸送などに使用するための車両 22 台を愛知県、名古屋市、保健所に無料貸与しました。
- ・愛知県には 2021 年 2 月に寄贈、名古屋市への貸与は継続しています。

➤愛知県からの感謝状授与の様子と愛知県への無料貸与車両



環境教育

■環境マネジメント「EMSファイル」の活用

- ・環境管理に関する「情報・手法」、環境関連法令で義務化されている帳票類を一元管理しています。
- ・「EMS 運用」と「記録・保管」、それぞれの統一した管理ファイルをグループ全拠点に配備し、包括的な管理をしています。
- ・各拠点では「環境推進計画書」を作成し、推進計画に沿った活動を実施しています。

➤グループ統一環境マネジメント「EMSファイル」。



■環境教育ツール「冊子、環境情報の配信」の活用

- ・グループ社員一人ひとりに対しグループ統一の環境に対する取り組みを伝える冊子、環境法令を遵守するための法令解説冊子など、現場教育のグループ統一ツールとして活用しています。

➤環境教育冊子「私たちができる職場の環境活動」、環境関連法令の解説冊子「法令一覧(環境編)」、定期発行している環境情報配信「e-information」



7.環境関連法規制の遵守状況及び評価

(ア) 適用となる環境関連法規

法令等の名称		適用される要求事項	該当の有無	評価
大気	フロン排出抑制法	定期点検、適正な回収	○	○
	自動車NOX・PM法	自動車排出窒素酸化物等の排出抑制に努める	○	○
水質	水質汚濁防止法	貯油施設の破損等、事故時の措置	○	○
	下水道法	下水道への不適物放流禁止の遵守	○	○
	浄化槽法	設置または変更時の届出	○	○
		保守点検		
廃棄物	産業廃棄物処理法	定期検査（年1回の水質検査実施）	○	○
		産業廃棄物の適正処理		
		マニフェスト交付状況の報告		
	愛知県および名古屋市、 廃棄物の適正な処理に関する条例	収集・運搬業・処理委託業者との契約締結	○	○
騒音 振動	騒音規制法	各処理委託業者の現地確認	○	○
		現地確認の記録保存（5年間保管）		
	振動規制法	規制基準の遵守	○	○
		騒音発生施設の設置届出		
再資源化	自動車リサイクル法	騒音発生施設の設置届出	○	○
		自動車の所有者の責務		
	家電リサイクル法	自動車の廃棄・使用済自動車の引渡義務	○	○
化学物質 危険物	特定家庭用機器廃棄物の処理	特定家庭用機器廃棄物の処理	○	○
	PRTR法	指定化学物質等の取扱い等自主管理	—	—
	消防法	保管量の遵守	○	○
		保管方法、設備の遵守		
エネルギー	高圧ガス保安法	高圧アセチレンガスボンベの取扱い	○	○
	労働安全衛生法	化学物質等の有害性等の調査及び健康障害防止処置	○	○
省エネ法	省エネ法	連鎖化事業所としての特定事業者指定と削減計画の策定	○	○

(イ) 環境関連の法規違反、苦情の有無

- ・過去3年間、環境関連法規の違反、関係当局からの違反等の指摘もありませんでした。
- ・騒音に関する苦情がありましたが、全て適切に対応し解決しております。

8.代表者による全体評価と見直し

◇環境マネジメント活動内容

本年度は、愛知スズキの拠点、アトコ/トランサット、愛知クレジット、AT グループ健康保険組合が新たにエコアクション 21 の認証に加わり、一部の ISO 認証を取得している事業会社を含めグループ全体で環境認証取得に至りました。

今後もグループが統一感を持って環境活動に取り組み、活動のレベルアップが図られるよう、グループ社員一人ひとりによる一層の協力をお願いいたします。

◇環境法令の遵守状況

当社が行っているCSRに関わる監査・調査活動を通じて、各拠点における環境に影響を及ぼす恐れのある項目を定期的に確認するとともに、委託業者による水質検査や従業員自らによる騒音測定を実施するなど、社内外ともに環境関連法令が遵守されていることが確認されており、関係当局から違反の指摘もありませんでした。

また、グループ事業活動に適用される改正法令情報を速やかに取得できるWEB サービスを活用することで、法令違反に至らぬよう未然防止活動も徹底しております。

今後も適切な管理体制を持続し、これまで以上に地域の皆さまから信頼される企業としてコンプライアンスの徹底を図ってまいります。

◇総括

自動車販売を中心とした事業活動を展開するうえで、“クルマ”に関わる環境負荷低減活動は当然の責務であります。また、グループ全体で一層の環境保全に努め、環境配慮型商品の提案を積極的に展開するなど、持続可能な社会の実現を見据えた事業活動を進めることで、快適な生活の実現と社会の発展に寄与してまいります。

昨今、地球温暖化対策として脱炭素社会実現に向けた機運が高まっています。当社グループにおいても、カーボンニュートラルの取り組みは社会の定石であると捉え、グループ全体で実効性の伴った脱炭素に向けた取り組みを進めてまいります。

2021年3月31日
株式会社ATグループ
代表取締役社長 山口 真史